

JIM-NET

Annual Report

2025

年次報告書



JIM-NET
الشبكة الطبية اليابانية العراقية



JUST PEACE!

1991年の湾岸戦争以降、イラクではがんや白血病の子どもたちが増加しました。日本では治療技術が著しく進歩し、小児ALL（急性リンパ性白血病）の90%近くが治癒する病気となっています。しかしイラクでは、ちょうどこの時期に国連決議に基づく経済制裁が国際社会によって課され、病院設備の老朽化や医薬品不足が深刻化しました。その結果、多くの子どもたちが命を落としました。

2003年のイラク戦争によって13年間続いた経済制裁は終了しましたが、その後も治療薬を十分に入手することが難しい状況が続いていました。そのような中、イラクから来日した医師たちが現地の窮状を訴えたことをきっかけに、複数のNGOが行っていたイラクでの医療支援を見直し、小児がんの子どもたちへの専門的かつ効率的な支援を行うネットワークとして、2004年にJIM-NETが設立されました。現地での活動を継続して22年が経過しました。この間、私たちはさまざまな情勢の変化に翻弄されながらも、人々が困難を乗り越え、前を向いて歩み続ける姿を見てきました。

2025年6月13日、イスラエルと米国によるイランへの軍事攻撃が突如開始され、私たちにも大きな衝撃を与えました。当初、JIM-NETの活動拠点であるアルビルでは大きな危険は感じられませんでした。安全確保のため、一時的な国内退避を実施しました。戦争は12日間で停戦となったものの、中東地域の不安定さを改めて実感する出来事となり、攻撃再開への不安を抱えながら新年を迎えることとなりました。

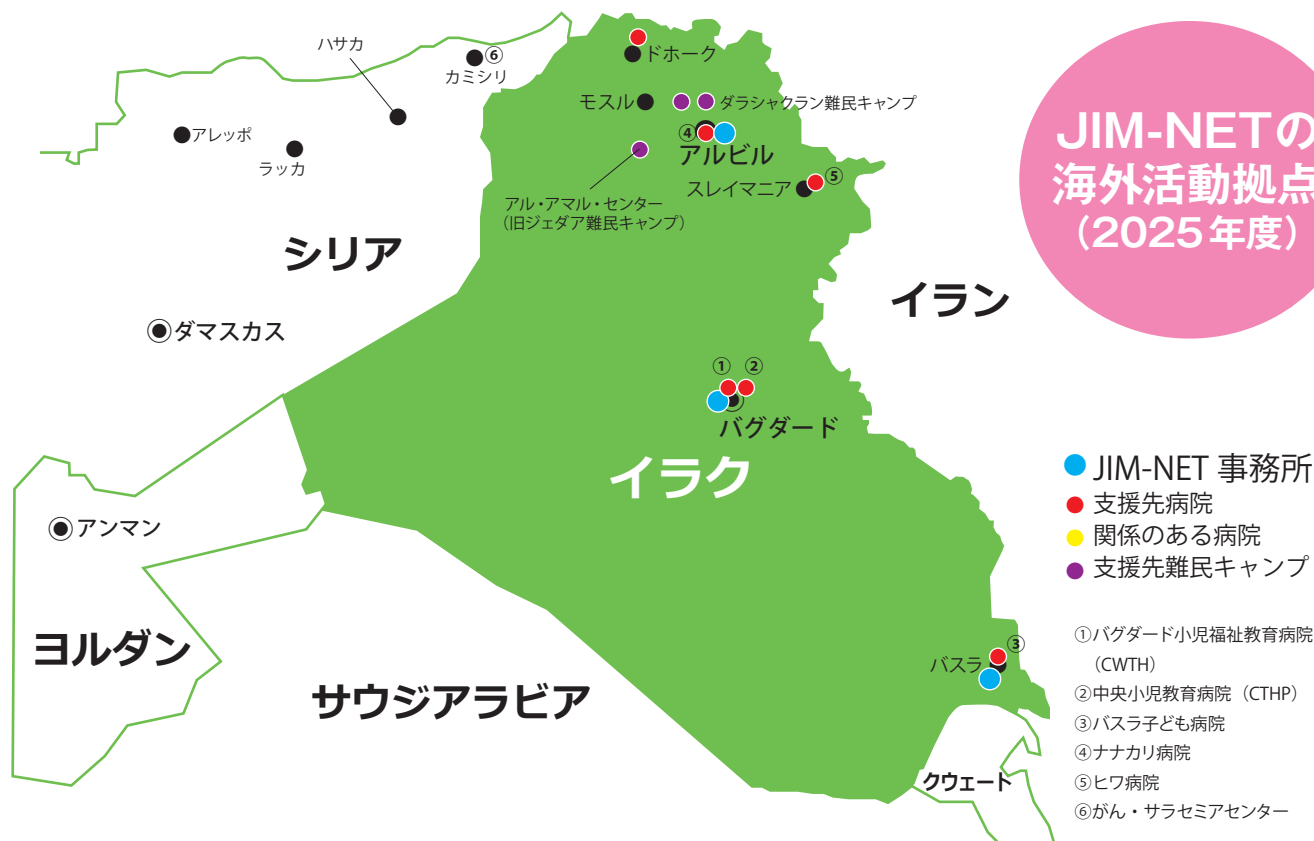
2026年2月28日、イスラエルおよび米国によるイラン攻撃が再び開始され、その影響はイラク国内にも及びました。今回は、イラン側からアルビル市内の米軍基地が標的となり、多数のドローンがアルビル上空を飛来し、着弾も相次ぎました。現地スタッフからは、日常生活の中で常にドローンの飛行音に神経を尖らせながら暮らしている状況が報告されており、これまでとは異なる緊張感に包まれた春となりました。特に、現地で暮らす子どもたちや、これまで戦争や紛争を経験してきた人々への精神的影響は計り知れません。

2026年4月～6月は停戦状態にあり、一時閉鎖されていた学校や大学も再開し、物価も落ち着きを見せています。しかし、依然として先行きは不透明な状況が続いています。戦争によって、普通の人々の日常が一瞬にして奪われる——。その現実を、私たちは改めて突きつけられています。情勢が急激に変化する時代だからこそ、現地で積み重ねてきた活動を途絶えさせることなく、安全を最優先にしながら支援を続けてまいります。

また、このような厳しい状況のなかでも活動を継続できているのは、長年にわたりJIM-NETを支えてくださっている支援者の皆さまのお力添えがあったからにほかなりません。改めて心より感謝申し上げます。

遠く離れた地で起きている出来事であっても、その影響を受けながら懸命に暮らしている人々がいることを私たちは忘れてはならないと思います。JIM-NETは、これからも現地の声に耳を傾け、病気と向き合う子どもたちとその家族の日々に寄り添ってまいります。

JIM-NETの 海外活動拠点 (2025年度)



JIM-NETのあゆみ

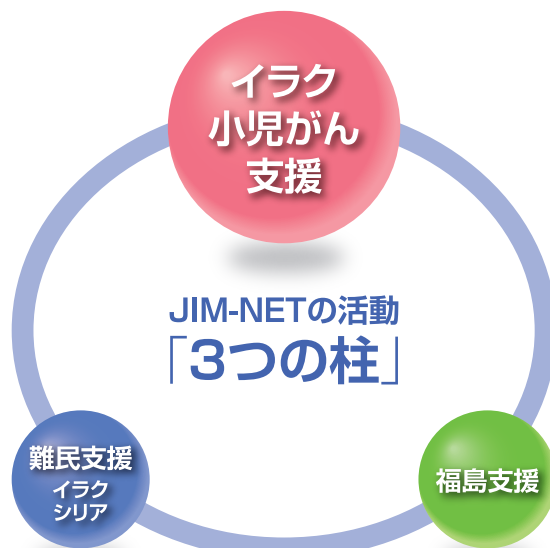
1990年代半ば、イラクの子どもたちの間で、がん・白血病の患者数が急増しました。1991年の湾岸戦争時に、米軍が使用した劣化ウラン弾との関連が指摘されています。しかし、湾岸戦争後の経済制裁による抗がん剤や医療機器の輸入制限のため、適切な治療が受けられずに、助かるはずの多くの子どもたちが命を失っていきました。

2003年のイラク戦争で、米軍は再び劣化ウラン弾を使用しました。イラクの病院は破壊され疲弊し、保健行政も機能不全に陥り、増え続ける小児がん・白血病の子どもたちにとって危機的な状況でした。2004年6月、来日したバスラ産科小児科病院のジャナン医師と日本の支援者たちの間で、子どもたちの窮状を救うための話し合いがもたれました。そして、より効率的で継続的な支援体制の確立をめざし、NGO、市民グループ、日本とイラクの医師たちが「日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)」を立ち上げました。以降、任意団体として7年あまり活動した後、2012年、特定非営利活動法人 (NPO 法人) となりました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災の直後には、宮城県石巻市を中心に、医療支援や仮設風呂の提供を行いました。地震と津波で福島第一原子力発電所の事故が起きた福島県にて、放射能の被害を最小限に留めるべく、除染や保養の支援を継続して行いました。また、2012年からは、紛争が激化したシリアから大量の難民が発生したことを受け、イラクとヨルダンにて緊急支援を開始しました。

2019年度には、イラクで初となる小児がん総合支援施設 (通称: JIM-NET ハウス) がアルビルのナナカリ病院敷地内に完成し、がんの子どもたちへの教育サポート、患者家族からの相談受付、宿泊場所の提供など心理社会的サポートが本格的に開始されました。

JIM-NETは、イラクの小児がんの子どもたちが自国できちんと治療を受けられるようになり、先進国並みの生存率となるように支援を続けます。福島支援活動も継続し、放射能汚染から子どもたちの健康を守る活動を行う団体への支援を継続しています。また、シリア難民支援とイラク国内避難民支援にも取り組んでいく予定です。



小児がん支援

2025年6月13日から6月25日にかけてイスラエルとイランの間で起こった軍事衝突は、イスラエルによるイランの核関連施設への先制空爆に始まり、隣国イラクでも緊張が高まりました。さらに2026年2月28日にアメリカ、イスラエルによるイラン攻撃開始を受け、イラク各地の治安も悪化しています。これまでも中東で勃発した紛争の影響がイラクに及ぶことがありましたが、今回はイラク国内の米軍基地への攻撃だけではなく、一般住宅地にも多くの攻撃が及びました。学校に通学できなくなり、しばらくオンラインの対応が続きました。戦争によりアルビルでは経済が停滞し、日雇いの仕事が大幅に減ってきています。

また、イラクでは、USドルの供給や流通が制限され、イラク国内の銀行でUSドル紙幣がタイムリーに引き出せないという問題が生じ、JIM-NETの活動も一時窮地に陥りました。

なお、ナナカリ病院との協議を経て、JIM-NETハウスは病院主導のもと運営を担っていますが、25年度も同様にJIM-NETハウス内の宿泊機能は継続し、多くの患者、患者家族の受け入れができています。また、病院内の部屋不足のため約2年間中断していた小学生のがん患者への教育プログラムが再開できた矢先、イラン戦争が始まってしまったため、ナナカリ病院内でJIM-NETが実施してきた院内学級が一時中断されてしまいました。しかし、病気の治療は途切れることなく継続して行うことが大切なため、入院・通院を続ける子どもたちの対応は、スタッフの安全を最優先にしながら続けています。



▲アルビル：院内学級の様子

こんな活動をしました

■ 医薬品支援・病院用消耗品支援

小児がん専門病院に抗がん剤やミルクを中心とした医薬品、医療品等を支援しました。

バグダッド	約57万円
バスラ	約58万円
アルビル	約154万円

*医薬品は、株式会社カタログハウス様、生活協同組合パルシステム東京様、立正佼成会一食平和基金様、連合・愛のカンパ様より多大なご支援をいただきました。



■ JIM-NET ハウス

7年目を迎えた小児がん総合支援施設「JIM-NETハウス」では、日々、2名のスタッフが患者家族の相談を受けるとともに、5回のピアサポートグループを実施し、30名が参加しました。また、遠方から来る患者家族のための宿泊機能は非常に重要です。宿泊費、交通費が支払えないために治療を中断する患者の報告はなく、活動が実を結んでいます。

【教育支援・課外活動】

年間延べ1,517人の子どもたちが診察室前の待合所でのアクティビティに参加し、治療前の不安な気持ちを軽減することができました。院内学級を2年ぶりに再開し、夏期と冬期に合計で33名の患者が小学校の科目の勉強とともに絵描きや音楽を楽しみました。夏期コースの保護者ア

ンケートでは、受講後の子どもたちは、感情のコントロールが上手になったり、行動に落ち着きが見られるようになった、という良い評価を多くいただきました。なお、冬期期間中にイ



▲アルビル：ナナカリ病院のがん患者に渡す栄養改善のためのミルク



▼アルビル：院内学級サマーコースでの授業風景





▲アルビル：家庭訪問



◀バグダードの医師と打ち合わせをするJIM-NETスタッフ



▲バスラに支援した医薬品



▲アルビル：遊園地にお出かけ



◀バグダード：プレイルームで遊ぶ子ども達

▲小児がん専門医のイラク人医師と故JIM-NETスタッフのサブリン（右）

ランへの米国・イスラエルによる攻撃が始まり、子どもたちの安全を考え、2026年3月の1ヶ月は院内学級が実施できませんでした。また、お絵描きワークショップ、地元の人気YouTuberとのイベントや医学生主催のイベントなどに延べ100人の子どもたちが参加しました。

【ピアサポート】

年間5回開催し、合計30名の保護者とがんに関する正しい知識を身につけながら、互いに励ます場を提供できました。参加者からは、サバイバー（がん経験者）の子どもを持つ母親からの経験談が非常に役立ったという声が多数寄せられました。

【宿泊者の受け入れ】

25年度は、ナナカリ病院で宿泊が必要な小児がん患者家族延べ4,565人（1日平均の利用者 12.5人）を受け入れることができました。利用者のうち、31家族に聞き取りしたところ、すべての家族が経済的負担を大幅に減らすことができたとの回答でした。

■貧困患者支援

生活に困窮する患者家族に対する支援として、病院が提

供できない医薬品の購入や病院までの交通費の補助支援を行っています。2025年6月の軍事衝突以降、イラク全体の経済状況は停滞し、患者家族が失業するケースも増えています。担当医師や患者家族から丁寧に状況を聞き取りながら、支援を実施しています。なお、バスラの貧困患者支援を、25年11月から地元企業に引き継ぎました。

アルビル	545件（地元の患者家族315件、国内避難民及びシリア難民家族230件）
バグダード	163件
バスラ	116件（2025年10月末で終了。地元企業に引き継ぎ）

アルビルでは生活状況を把握するために家庭訪問を実施し、高額になる検査代等の特別支援も別途実施しました。（79件）

■啓発活動

がんと感染症に関する出張授業を4校で実施しました。小学校1～3年生に感染症対策、4年生以上にはがんに関するレクチャーを行い、320名が参加しています。

JIM-NETが支援する子ども

レバー君は、両親と兄弟が1人、姉妹が5人の9人家族でアルビル市内に住んでいます。JIM-NETの支援するアルビルのナナカリ病院内で、いつもニコニコ笑っている彼の姿が見られます。友だちと遊んだり、自転車に乗ることや、ゲームをするのも大好きです。病院に来ると、外来前の待合室でJIM-NETスタッフと遊んでいます。

レバー君が治療を開始したのは2025年8月からで、20日間に一度病院に治療を受けに来ています。現在、体調は比較的落ち着いていますが、医師はレバー君の状態を把握するために検査を受けるよう勧めており、検査費用が400ドルもかかるため、今はそのお金がなく、検査を延期しています。



レバー・ワラット君
年齢：8歳
病名：T細胞性急性リンパ性白血病

レバー君の家族は、2014年にイスラム国が台頭した際、故郷を追われシリア北西部からイラクのクルド自治区に難民として逃げてきました。レバー君が生まれたのは、アルビルです。将来の夢を尋ねると、「金（きん）を売る人になって、お金持ちになりたい。」と答えました。「どうして？」と尋ねると「お金持ちになって、家族が良い生活ができるよう手助けしたいんだ」と話してくれました。

2026年2月末に開始された米国・イスラエルによるイランへの攻撃以降、アルビルはドローンの攻撃が市内の各地に起こる治安の悪化だけでなく経済全体も停滞しています。レバー君のお父さんは鍛冶屋職人として働いていましたが、仕事がなくなってしまい、家計が大変なことをレバー君は理解しています。



2025年度の活動の様子

アルビル



バグダード



バスラ



難民支援



概要

イラクおよびシリアの避難民は、依然として深刻な人道的危機に直面しています。イラク政府は北部の国内避難民キャンプの閉鎖を進め、自立支援や地域復興を目指していますが、故郷のインフラの破壊、治安の不安定さもあり、困難な状況もあります。さらに、米国国際開発庁（USAID）が2025年7月に事業停止され、イラクの国内避難民、イラク国内のシリア難民に対する、職業訓練、心理社会的支援、地域統合支援、水・衛生・教育支援、そして医療分野は支援全体の大きな役割を占めており、各地で展開されていた支援事業が即時撤退に追い込まれ、その影響は計り知れません。

シリアでは、2024年11月～12月にかけて反体制組織が北部アレッポと首都ダマスカスを続けて制圧し、父子

2代で半世紀以上続いたアサド政権は崩壊しました。暫定政府が樹立されましたが、政府内は様々な組織を含んでおり、地域によっては不安定な状況が続いています。

特にJIM-NETが支援を続けているシリア北東部では、虐殺や迫害を恐れた少数民族やクルド人など多くの避難民が押し



シリア国内のがんセンターへ支援した医薬品



アル・アマル・センター内のクリニック訪問



アル・アマル・センターに並ぶテントの住居



ドラシャクランキャンプ内で実施の刺繍ワークショップ



寄せ、さらなる混乱が生まれています。

また、2026年1月初旬には暫定政府の治安部隊とクルド人主体の武装組織「シリア民主軍」(SDF)の衝突が激化し、約2週間にわたって戦闘が続くなど、混乱が続いています。



活動内容

■ 国内避難民・シリア難民キャンプ（イラク国内）

ドラシャクラン・シリア難民キャンプでは、妊産婦や経済的に困難な状況にある女性たちを対象に、手工芸ワークショップを実施し、45名が参加しました。また、孤立しがちなキャンプにおいて、参加者同士がコミュニケーションをはかる場にもなっています。

ニナワ県に位置し、シリアからの帰還民が収容されているアル・アマル・センター（旧ジャダア難民キャンプ）では、ローカルNGOのジアンと協働して1,875名の避難民女性を対象に、医薬品等を支援することができました。

■ シリア国内支援

シリア北西部における混乱した状況により、シリア国内にあるがん・サラセミアセンターでは抗がん剤、輸血用血液、診断用試薬、医療機器の通常の供給ルートが遮断され、数百人の患者が適切な治療を受けられなくなっており、この状況が続けば、治療を継続できずに患者が死亡する恐れもありました。そのため各種抗がん剤、貧血治療薬、好中球減少症の治療薬などクルド赤新月社（KRC）を通じ、支援をしました。

さらに、2024年度、旧アサド政権の崩壊後にKRCと連携してクラウドファンディングによる北東部への第一弾の緊急支援を実施し、今年度は第二弾として、移動式簡易診療所への医薬品の支援を実施しました。

クラウドファンディングの残金より約121万円とシリア国内支援予算より約147万円を送りました。（2～3月に実施した支援費用の60～70%相当）

福島支援



福島の子どものための保養活動や放射能測定などを行う団体に対して、公募・推薦によって選拔し、支援を実施しました。
(2025年度募集期間：2025年7月1日～12月31日)

2025年度は、3団体に支援しました。
(五十音順、法人格名を除く)

2025年度 福島基金支援先団体一覧

団体名	事業概要	助成額
福島の子どもを招きたい！ 明石プロジェクト	過去に保養に参加した親子のボランティアによって担い手を育てる	¥300,000
信州・大町山の子村 キャンプ実行委員会	信州での保養	¥300,000
福島保養プロジェクト ・練馬	保養に参加できない人のための滞在型保養ハウス運営	¥300,000
合計		¥900,000

広報・イベント



【刊行物】・JIM-NET便り年間3回発行
・アニュアルレポート1回発行

【主な開催イベント】

- ◆2025年
 - ・7月19日 戦火に生きる人々を見つめて～玉本英子さん報告会
 - ・8月20日 こどもアートアドベンチャー@練馬ココネリ
 - ・11月14日 イラク小児がん支援オンライン報告会
- ◆2026年
 - ・3月19日～24日 Pray for Peace！イラク、シリア、そして世界の子どもたちとともに
 - ・3月20日 Pray for Peace！ピアノ演奏＋トーク
出演：ウォン・ウィンツァン（ピアニスト）、Yae（半農半歌手）
 - ・3月21日 JUSTPEACE！ ギャラリートーク
出演：川田淳（映像作家）
 - ・3月22日 スペシャルダイアログ
出演：サヘル・ローズ（表現者）、トロプチン・ニキタ（ウクライナ出身、茨城県留学生親善大使）



年に一度のギャラリー展の様子



Pray for Peace! ～ピアノ演奏＋トークイベント

チョコ募金

毎年みなさまからの温かいご支援をいただき、2025年度で21回目のチョコ募金となりました。チョコ募金は、冬季限定の募金キャンペーンで1口550円ご寄付くださった方に、チョコレートをお礼としてお届けしています。

「思いのこもった絵に、その子たちと近くにいられるような気がして勇気をもらっています」「このチョコを周りの人たちにプレゼントしながら少しでも今起きている問題について話すきっかけになればと考えています」など、たくさんの応援メッセージが寄せられています。闘病中の子どもたちの絵が、イラクやシリア、そして平和について考えるきっかけになることを願っています。

日本でも物価高騰が続く大変な状況の中で、たくさんの方からお申込みをいただき、お陰様で13万個すべて終了することができました。ご支援をくださった皆さまに心から感謝申し上げます。



- ① 1缶（ハート形のチョコレート10枚入り）：550円のうち約300円が支援に使われます。
- ② テーマ：『CHOCOLATE for PEACE!』
- ③ 取組個数：六花亭様のご協力により、13万個
- ④ 実施期間：2025年11月25日～2026年3月9日まで

◆チョコ募金運営協力（敬称略）

六花亭商事株式会社/東邦金属工業株式会社/古茂田工業株式会社/株式会社江連金属印刷所/有限会社佐賀製作所/有限会社山猫印刷所/社会福祉法人 川崎市社会事業団 KJF 多摩はなみずき/日本国際学園大学野田美波子/SEO株式会社/MAYUMI/S-GUMIZAWA

収益事業

COFFEE for PEACE !

2025年度で5回目の取り組みとなった「COFFEE for PEACE!」（ドリップコーヒー）は少しずつ広がりを見せており、お陰様で大変ご好評をいただきました。

株式会社キャメル珈琲のご協力で、子どもたちの絵がパッケージに印刷され、たくさんの方に絵に触れていただける貴重な機会となりました。

1セット（2個入り）：550円（税込み）うち約200円がJIM-NETの活動資金となります。



取組個装：2万個（絵柄：2種類）

実施期間：2025年9月24日～2026年3月23日

◆COFFEE for PEACE! 運営協力（敬称略）

株式会社キャメル珈琲/東邦金属工業株式会社/古茂田工業株式会社/社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会 新宿区立高田馬場福祉作業所/日本国際学園大学 野田美波子/SEO株式会社/MAYUMI/S-GUMIZAWA

海外事業

アルビル県を中心とした包括的小児がん患者支援

事業地：イラク・クルド自治区アルビル

対象者：約6,000人（JIM-NETハウス滞在の患者家族含む）

活動内容：心理社会的サポート、医薬品支援、貧困患者支援、がんに関する啓発活動

バグダード小児がん支援

事業地：イラク・バグダード

対象者：約1,500人

活動内容：医薬品支援、貧困患者支援、院内学級運営

バスラ小児がん支援

事業地：イラク・バスラ

対象者：約2,000人

活動内容：医薬品支援、院内学級運営



国内事業

福島事業 (福島基金)

1. 福島の子どもの対象にした被曝から守る活動を行っている団体の活動に対し、支援を行う。
2. 2026年7月1日から公募を開始する。

チョコ募金

1. テーマ：CHOCOLATE for PEACE!
2. デザイン：イラクと日本をオンラインで繋ぎ、お絵描きワークショップを行い、子どもたちが描いた絵をチョコ缶のデザインに採用する。
3. 取組個数：11万個
4. 受付スタート：2026年11月中旬から受付開始予定。

サポーター・ ファンドレイジング

1. 様々な寄付の方法をまとめたチラシを作成し、広く周知に努める。

収益事業

1. ドリップコーヒー・COFFEE for PEACE! 第6弾
9月中旬より新デザイン（1万セット）を販売スタート予定。
2. その他グッズ
イベント等で随時販売予定。

広報・イベント

1. 広報
HPの充実（写真の更新、応援
くださっているインフルエン
サー紹介など）
2. イベント
報告会など各種チャリティイ
ベントの実施。



2025年度決算

活動計算書 2025年4月1日～2026年3月31日

I. 経常収益 (単位: 円)	
科目	決算額
受取会費	正会員受取会費 65,000
	サポーター受取会費 1,671,000
	ラナサポーター受取会費 2,690,000
	合計 4,426,000
受取寄付金	受取寄付金 24,019,019
	チョコ募金 74,760,600
	合計 98,779,619
受取助成金	3,791,638
	合計 3,791,638
事業収益	自主事業収益 7,203,540
	合計 7,203,540
その他収益	受取 利息 46,243
	雑 収 益 460,028
	受取講演料等 103,000
	合計 609,271
経常収益計	114,810,068

II. 経常費用／III. 経常外収益／IV. 経常外費用 (単位: 円)

科目	決算額
事業費	人件費 (給与手当、通勤費他) 42,444,220
	売上原価 1,962,082
	旅費交通費 11,992,788
	その他費用 (家賃、水道光熱費他) 18,599,900
	医薬品支援 6,627,654
	貧困患者支援 13,813,696
	その他支援 5,339,890
	ワークショップ等開催費 1,190,395
	寄付金原価 26,954,895
	印刷広告宣伝費 (事業) 5,168,318
	事業費計 134,093,838
管理費	人件費 (給与手当、通勤費他) 8,476,425
	その他経費 (事務所家賃他) 5,491,165
管理費計	13,967,590
経常費用計	148,061,428
経常外収益計	0
経常外費用計	70,000
当期正味財産増減額	△ 33,321,360
前期繰越正味財産額	200,209,933
次期繰越正味財産額	166,888,573

貸借対照表 2026年3月31日現在

資産の部 (単位: 円)		負債の部 (単位: 円)	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
現金・預金	155,847,978	未 払 金	301,129
未収金	0	未払 費用	277,840
棚卸資産	424,125	預 り 金	502,730
(その他流動資産)		仮 受 金	
前払 費用	0	負債合計	1,081,699
仮 払 金	0	【正味財産】	
緊急時対応準備金	11,000,000	前期繰越正味財産額	200,209,933
流動資産合計	167,272,103	当期正味財産増減額	△ 33,321,360
【固定資産】		正味財産合計	166,888,573
什器 備品	73,209		
敷金	624,960		
固定資産合計	698,169		
資産合計	167,970,272	負債及び正味財産合計	167,970,272

監査報告書

監 査 報 告 書 INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT
特定非営利活動法人 JIM-NET の 2025 年度決算 (2025 年 4 月 1 日 - 2026 年 3 月 31 日) について、監査の結果、事業は適正に実施され、また活動計算書および貸借対照表は、一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認める。 I have audited the financial statement of NPO JIM-NET as of March 2026 and acknowledged that revenue and expenditures for the Fiscal Year 2025 in the activity statement and balance sheet were based on generally accepted accounting principles. 日付: 2026年5月31日 監事: 今井 高樹

2026年度予算

活動予算書 2026年4月1日～2027年3月31日

I. 経常収益 (単位: 円)	
科目	決算額
受取会費	正会員受取会費 70,000
	サポーター受取会費 2,500,000
	ラナサポーター受取会費 3,000,000
	合計 5,570,000
受取寄付金	受取寄付金 23,200,000
	チョコ募金 63,800,000
	合計 87,000,000
受取助成金	4,000,000
	合計 4,000,000
事業収益	自主事業収益 6,700,000
	合計 6,700,000
その他収益	50,000
	合計 50,000
経常収益計	103,320,000

II. 経常費用／III. 経常外収益／IV. 経常外費用 (単位: 円)

科目	予算額
事業費	人件費 (給与手当、通勤費他) 38,092,000
	旅費交通費 4,275,000
	その他費用 (家賃、水道光熱費他) 14,428,000
	医薬品支援 5,600,000
	貧困患者支援 5,000,000
	その他支援 2,950,000
	ワークショップ等開催費 384,000
	業務委託費 0
	寄付金原価 25,605,000
	印刷広告宣伝費 (事業) 5,618,000
	事業費計 101,952,000
管理費	人件費 (給与手当、通勤費他) 14,070,000
	その他経費 (事務所家賃他) 5,745,000
管理費計	19,815,000
経常費用計	121,767,000
当期収支差額	△ 18,447,000

JIM-NET参加団体紹介

アラブの子どもとなかよくする会／株式会社カタログハウス／一般社団法人 子どもの平和と生存のための童話館基金／医療法人社団スマイル スマイル子どもクリニック／認定NPO法人 日本国際ボランティアセンター (JVC)／認定NPO法人 日本チェルノブイリ連帯基金 (JCF)

ご支援いただいた皆様の紹介 (敬称略)

誌面の都合上、大口のご寄付をいただいた企業・団体を掲載しております。ご寄付を賜りましたすべての皆様に、深く感謝申し上げます。

◆助成金

宗教法人立正佼成会 (一食平和基金)

日本労働組合総連合会 (愛のカンパ)

◆ファンドレイジングサービス

TMコミュニケーションサービス株式会社 (お宝エイド)／株式会社ブギ (古本チャリティ募金)／gooddo 株式会社／ソフトバンク株式会社 (つながる募金)／株式会社 STYZ(Syncable)／ピープルポート株式会社 (ZEROPC 想うプロジェクト)／コングラント株式会社

◆チョコ募金 (9,920 件)

株式会社アルソア慧央グループ／ピア&カフェ BERG／自然派くらぶ生活協同組合／大王製紙株式会社／ゴスペル・スパークル／学びい舎英語塾／札幌イラクチョコ募金の会／株式会社ミズ／認定NPO法人日本チェルノブイリ連帯基金／旭松食品株式会社／静岡西部健康友の会／一般社団法人文民教育協会 子どもの文化研究所／株式会社三菱UFJ銀行グローバルビジネスオフィス／住友理工株式会社

◆ご寄付 (2,123 件)

生活協同組合パルシステム東京 (平和カンパ)／株式会社カタログハウス／株式会社LIVE IN PEACE／全国友の会中央部／有限会社エリコ通信社／DAMASHQUIE／株式会社アレppoの石鯨／株式会社イマジネーション・プラス／革工房パロール

2025 年度年次報告書

2026 年 7 月 30 日発行

特定非営利活動法人 JIM-NET (ジムネット)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-11 内藤ビル2C

電話：03-6228-0746 E-mail：info-jim@jim-net.net

寄付金振込先：ゆうちょ銀行振替口座 00540-2-94945

加入者名 日本イラク医療ネット

他行からのお振込の場合：

預金種目 当座 店名 ○五九店 (○は漢数字のゼロ)

口座番号 0094945

<http://jim-net.org/>

一年間の活動の締めくくりは、神保町・文房堂ギャラリーでの『Pray for Peace!～イラク、シリア、そして世界の子どもたちとともに』と題した企画展です。2026 年 3 月 19 日～ 24 日までの会期中は、初日から多くの来場者の方々をお迎えできました。前年は、6 月に米国・イスラエルとイラン間の「12 日間戦争」、そして 11 月には小児がんを乗り越え、JIM-NET のスタッフとして活躍していたサブリーンの急逝という予想しない出来事が続きました。特にサブリーンの訃報は、現地イラクと東京のスタッフたちにとって心が痛むものでした。天国に旅立つ数日前まで連絡を取り合っていたこと、そしてサブリーンが長年の辛い闘病を経て力強く生き、同じ病気に悩み苦しむ子どもたちとその家族のケアに真摯に向き合っていたことを知っていたからです。今回は一人の女性としてのサブリーンの半生を辿るメイン展示といたしました。

また、2026 年 2 月 28 日にはイスラエルおよび米国によるイランへの攻撃が開始され、JIM-NET の活動拠点であるイラク北部のアルビル市内にはイランからのドローンが多く飛来・着弾しました。イラクのスタッフたちとその家族、支援する子どもたちへの影響も大きく、その様子を「イラクレポート」として会場で読んでいただけるよう準備いたしました。

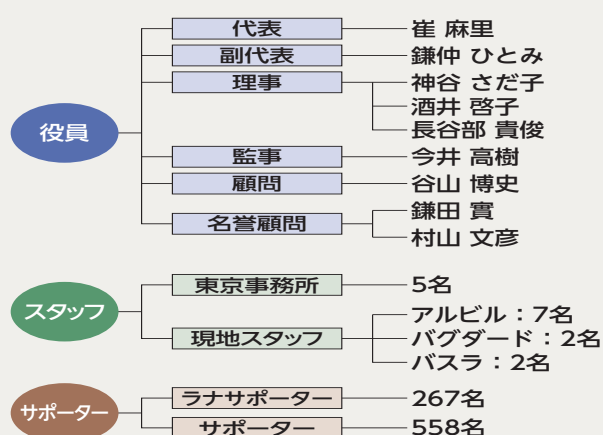
展示の様子を丁寧に取材くださった編集者の方の感想を下記のとおりご紹介いたします。

「Pray for Peace!～イラク、シリア、そして世界の子どもたちとともに」が開催。イラクに医療支援の拠点をもち、活動していることから、今回の「イラン戦争」についての近況報告など大きな期待が寄せられる展示会だったが、意外にも「戦争」の悲惨さや過酷な現実ではなく、「日常が奪われること」を静かに、しかし強く訴える展示だった。だからこそ、この現実是谁にとっても起こりうるもので、私たちにとって「当たり前の暮らし」こそが最も尊く、守らなければならないものなのだということが強く印象に残る企画展だった。」

現地での活動は勿論、活動を通して得られる情報をひとりでも多くの方々に分かりやすく伝えていくことも大切な業務の一環として捉えて発信を継続してまいります。



組織体制 (2026 年 3 月現在)



JIM-NET
الشبكة الطبية اليابانية العراقية

